



『一步一步進もう』

~Let's Move Forward Step by Step~
東京六本木ロータリークラブ会長

TOKYO ROPPONGI ROTARY CLUB

WEEKLY REPORT

東京六本木ロータリークラブ



『ロータリーは分かちあいの心』

~Rotary Shares~
国際ロータリークラブ会長

発行日 2007年10月1日

No. 10

平成19年9月3日

卓話 『トットちゃんと世界の子どもたち』
女優・ユニセフ親善大使
黒柳 徹子 様

黒柳徹子でございます。ユニセフの親善大使は助けを必要としている子供たちの状況を皆さんにお伝えするのが仕事でございます。発展途上国と先進国でどこが一番違うかというとお水で、衛生状態のいい水道がお家の中にあるような国は世界で数パーセントです。24~25年前に初めてタンザニアへ参りましたとき、旱魃で力サカサになった地面を触っていましたら、そこにいた女の人が手を洗うようにボールにお水を下さったんですね。そのお水がミルクコーヒーみたいな色をしていたんですけど、そのお水も5km先から汲んできただって言うんでびっくりしましたら、それはまだ近い方で、15kmも行かなきゃなんない人もいるっていうことでした。その時に男の子がずるずる地面這いずっているんです。母乳の栄養が足りないでミルクもなくて脳に障害を起こしてしまったって聞いた時、これが本当の栄養失調というものだって分かったんです。その村の村長さんがおっしゃったのは、大人は死ぬ時に苦しいとか言って死ぬけど、子どもは何にも言わないで大人を信頼して死んでいくんですって。私、子どものことは分かっているつもりでしたけど、本当は分かっていなかつたんだなと、何度も何度も思ったんですね。それが最初のショックでした。

インドで一番子どもが罹る病気は破傷風です。インドは地面に寝ている子どもが沢山いるんですね。貧しい子どものいっぱいいるところに行きました。20人ぐらいの子どもがうす暗がりの中に寝ていて、一番端にいる子に頑張ってねって言ったら、その子が硬直した喉の奥でウグーって一生懸命何か言つたんです。何て言ったんですかって聞いたら看護婦さんが、あなたのお幸せを祈っていますと言つてますって。その時に本当にね、予防接種1本していれば死なないで済むのに、何の文句も言わずに、あなたの幸せを祈っていますって言うような子が死んでいくんだなと思いまして、タンザニアの村長さんの言ったのはこういうことだと思ったんです。

私が親善大使になった23~24年前、1年間で1400万人の子どもが死んでいました。今は1050万人で、世界中の子どもたちが子どもたちのことを考えた結果、減ったと思うんです。一番瘦せた子どもを見たのはエチオピアです。隣りのソマリアがすごい内戦で、みんなはだしで逃げてくるんですけど、その子どもたちは膝の骨も全部表から見えるんですね。髪の毛も瘦せて頭蓋骨の形もはっきり見えちゃう。難民キャンプでユニセフが食べ物を配給するとき、骸骨のように瘦せた子が並んでいる横に土が盛ってあって、何ですかって聞いたら、あれはこっちへ来てから死んだ子どもを埋めてあるんです。その埋めてあるのがずっとどこまでもあって、風がビュービュー吹いている状況なんか見ますと、もう本当にどうしてこんなんだろうって思って。

とても大事なことは教育です。モザンビークは独立した時、2%しか字の読める人がいなかった。植民地でポルトガルに資源を全部持っていくから何も教育してもらえなかったんですけど、大統領は素晴らしい方で、私、おみやげに双眼鏡をあげて、冗談にこれでゲリラをご覧くださいって言つたら、大統領が、いいえこれでこの国の未来を見ましょうとおっしゃったんです。なんて素晴らしい言葉だらうと思いました。案の定、今、モザンビークはアフリカで第一というぐらい発展しています。

最悪と思える状態の中でも頑張って生きていこうとしているのが子どもたちで、子どもは生まれつきそういう力を与えられていると思うんです。私たちに何ができるか、お金は勿論んですけど、関心を持っていただくことが先ず最初ではないかと思います。今日のうちに話のできるチャンスを与えてくださることは非常にありがたいことです。ありがとうございました。

